



山の上にあるいろいろな施設が整備されています（ひびきの郷）

流のあった人口4千人弱の小さな町。しかし、半径1時間のエリア内には、福岡県をはじめとする750万の人口を抱え、田舎でありながら都市生活者とながりを持った町でもある。

平成10年に株式会社「大山夢工房」が設立され、「ひびきの郷」は、その一施設として平成14年に整備されている。

平成17年の立ち寄り客は、65万人、客単価約1、

000円。増客も考えながら、さらに高級な品物で客単価を上げる努力もしている。

梅にこだわった販売を続けており、梅干し全国大会や梅大学、梅酒をポルドーのワインフェスティバルで発表するなど発想が斬新で、今後の発展も予感される。

(2)大分県漁協佐賀関支店 佐賀関は天然の好漁港を有し、関さば・関あじで知られる。漁協の組合員762名(準組合員含)、水揚高 約11億4千万円。(参考:鳥取県漁協御来屋支所 組合員75名、水揚高約3億5千万円)

平成元年から関さば・関あじのブランド化を目指した全国キャンペーンを続け、商標登録も行っている。速吸の瀬戸で、しかも一本釣りでとれた活魚であり、刺身で食べられるさばとして有名。他のさば・あじと区別するために1匹1匹に関さば・関あじの札を付けたり、シールを貼っている。

しかし近年、漁業者の老齢化や、巻き網船団・遊漁船による乱獲被害などで水揚げ高は、最盛期(平成元年に20億円)の半分となっている。

まとめ

拠点作りとブランド化には、相当な時間と労力が必要であり、成功する要因も、誇れる商品・立地条件・物語・時代の流れに沿っているか等、さまざまである。

幸い、わが町は、県下でもバランスのとれた産業、そして「大山」を中心とした貴重な自然、人情、どこにも負けない素材が眠っている。

この素材を組合せ、綿密で先見性のある作戦を立てることのできる人材の確保・育成が必要になっている。

教育民生常任委員会

交流自治体の福祉施策

沖縄県嘉手納町 他

相互交流を行っている。

これまで大山の議員団が同町を訪問した実績がなかったこともあり、子どもたちが交流する現地を視察するとともに、同町の先進事例を学ぶこととした。

町の面積は15km²、その83%を基地が占有し、残された狭い町域で約1万4千人の町民が生活している。町は基地関連の補助事業を活用して、福祉・人材育成等に積極的に取り組んでいる。

(2)読谷村

・介護予防

・地域福祉事業

読谷村では、平成元年からお年寄りの地域活動として、23行政区のうち22行政区の公民館を中心に地域ボランティアに支えられた「ゆいまーる共生事業」に取り組んでいる。元気な高齢者やボランティアが、80歳以上のお年寄りの健康チェックを兼ねた生涯学習と連携

したレクリエーション指導など、地域特性を生かした独自事業としての充実発展をはかっている。

(3)恩納村

・農水産物販売センター
なかつい
・博物館

恩納村では、自主視察の計画をしていたが、村役場課長に案内をしていただき、他の施設も視察することができた。

嘉手納町との交流は、大山町の子どもたちが、平和の大切さを考えながら、有意義な体験を通じ、さらに成長する絶好の機会であり、維持継続すべきものと確認した。



嘉手納町で子育て支援の研修